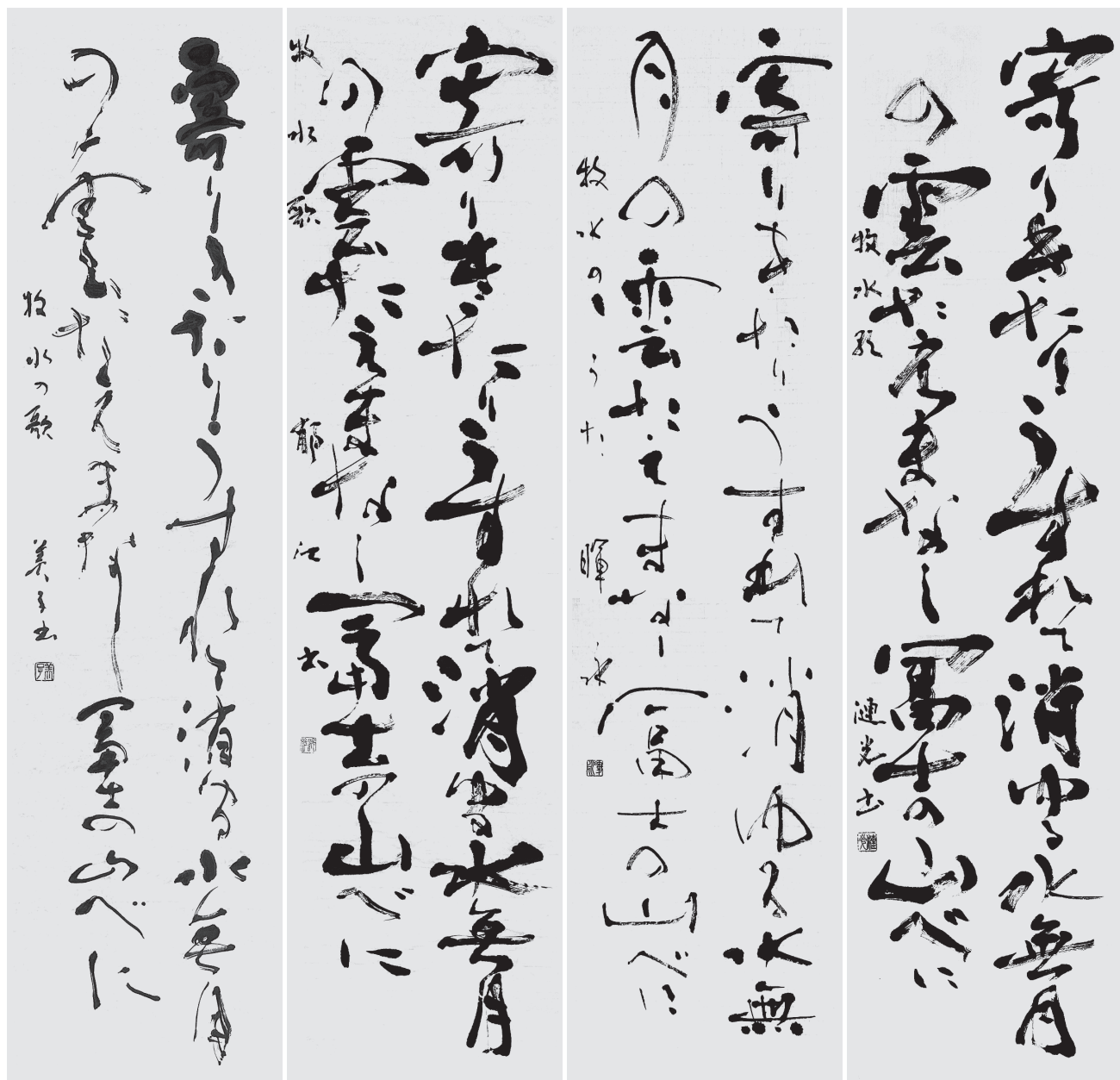


武良霜伯先生選評



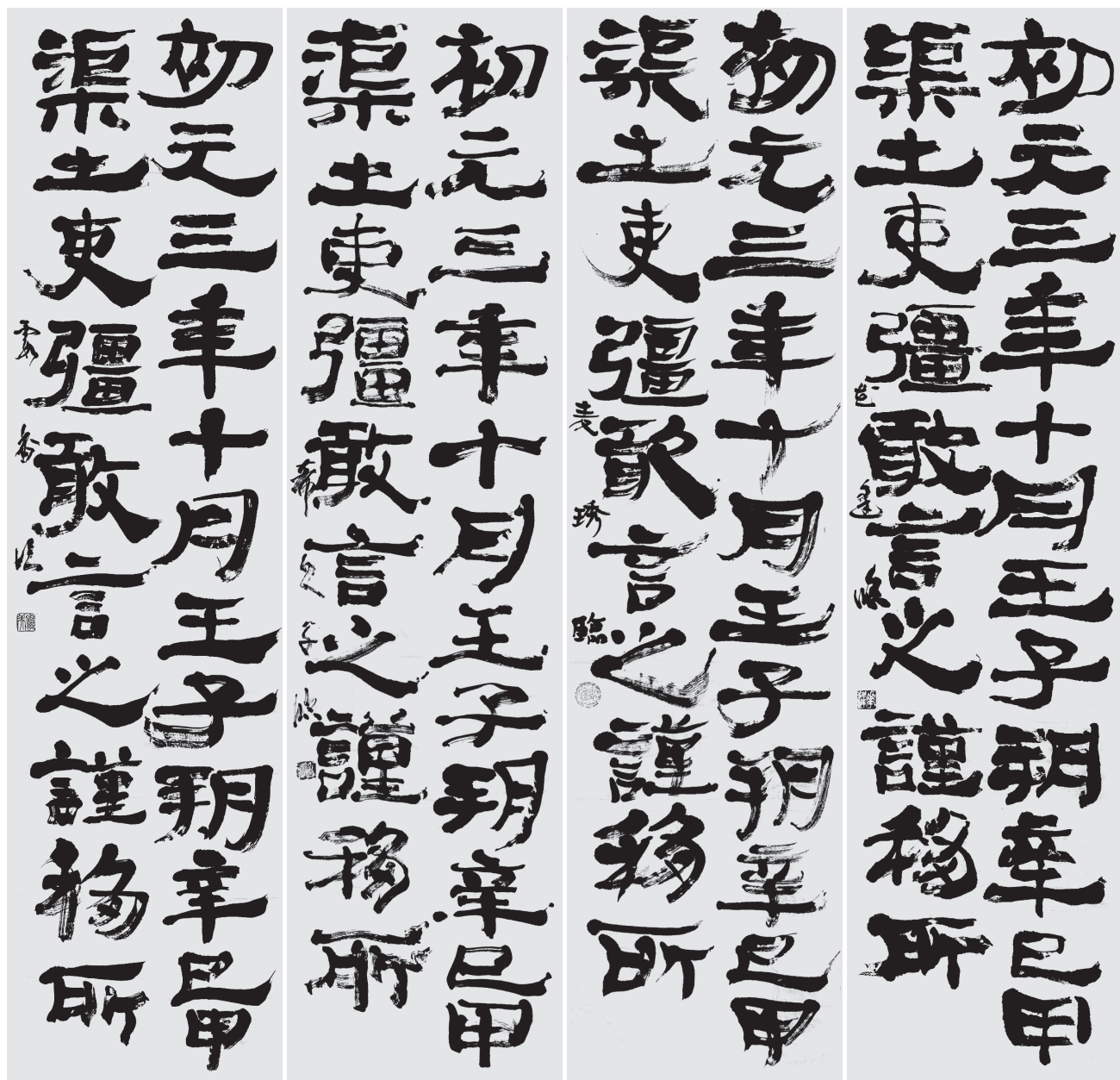
石川 連光 推選
紙面の纏め方、章法が抜群で墨色をよく考えながらの強弱、躍動感溢れる快作です。意先筆後を更に磨きながら、正統の書法を求めて頂きたいと思います。

桑子 暉永 推選
どの文字も結体の組み立て方が素晴らしく、懐を広く取りながらの曲線を駆使した書作、大賛成です。筆の握りが優しく爽やかな春風が吹き抜ける様な白の美しい作。

吉田 郁江 推選
スピードのある筆運び、ひらがなの強弱、太細な線の扱いと、漢字の振幅のある上下動が上手く調和した作。神経の細やかさが大いに発揮された快作です。

東谷 美子 推選
麗しさと優美さを兼ね備えた、流れる様な筆遣い等、かな作家の近代詩文書、感動しました。一行目の揺らぎ、二行目の渴筆の割れ等御名前通りの美作品です。

高野清玄先生選評



進藤花逢 推選
漢簡の軽いリズムを筆毛を立てた深味のある線で料理され作品にした。やや押しぎみの重さが気になるが、逆に厚味のある安定感に繋がった。速い運筆も見たい。

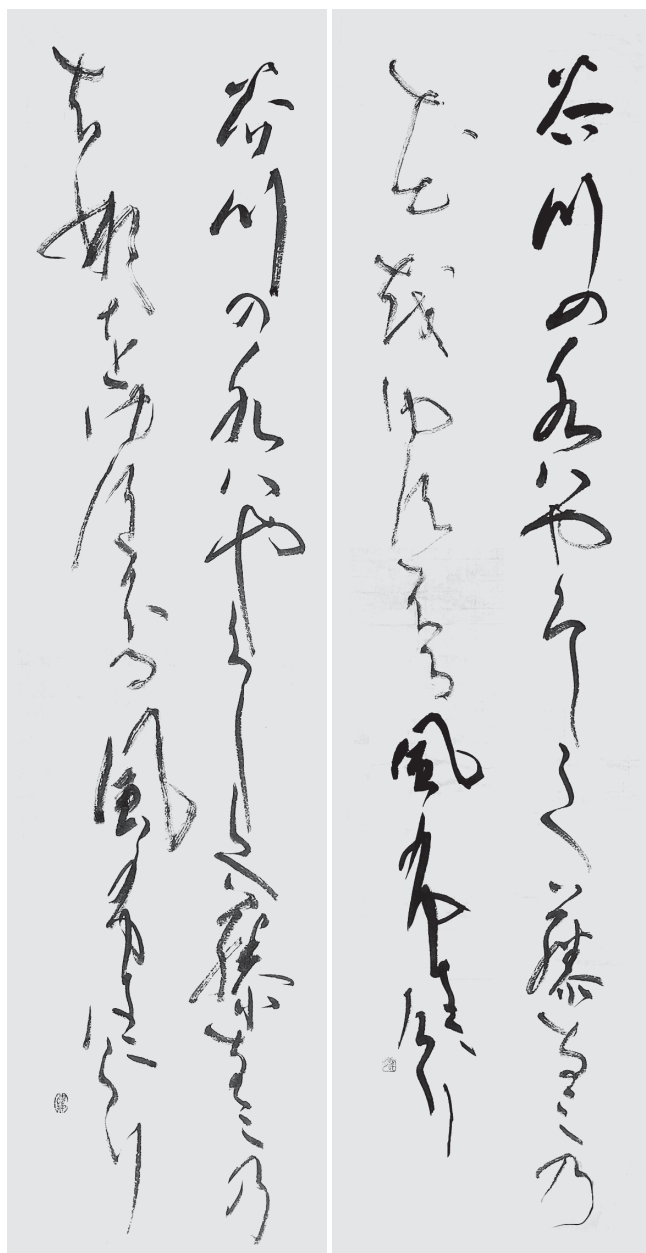
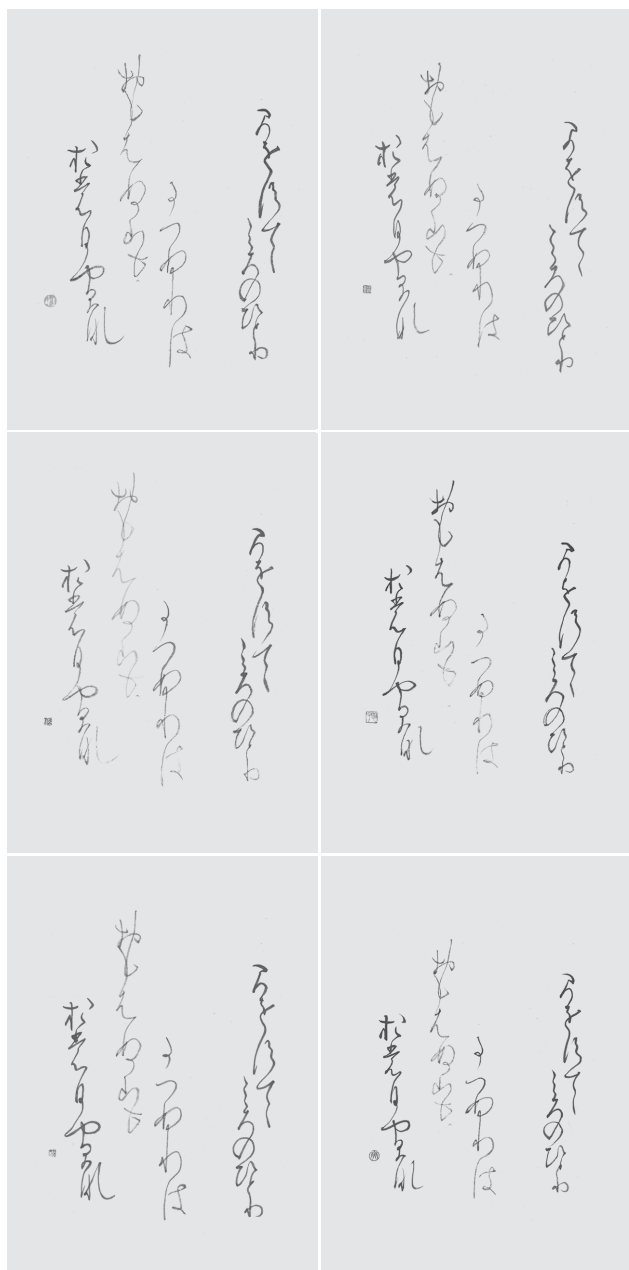
鯨井麦瑠 推選
木簡の奏でるメロディーが聞こえてきそうな作。楽しく筆が紙面を走り、又高い所へ昇ってゆく。そのリズムミカルな動きが太く細く文字を形成して秀作となった。

早川希久子 推選
筆の握りが柔らかい。羊毛筆を駆使してゆったりとした運筆で書き上げた。線はふくよかに穏やかに温かみのあるものとなり鑑賞者を安心させる。ほっこり佳作。

米山霞香 推選
運筆素直で伸びやかで爽やかな線が表現された。その為、黒が鮮やかで白が美しく作品が明るく見える。遅速の変化等で線に変化が出てくると立体感が生まれる。

露崎桂子先生選・赤富士北祭先生評

佐々木優子先生選評



高島礼子 八段
一条は、細身の線ばかりではなく拡大コピーをして観察すると逞しい部分に遭遇する。そんな表現を生かして紙面を大きく捉えた魅力的な作。

横井佑雪 七段
一条の習い方として粗密の変化を強調する方法がある。要所に見える引き締まった表情はおおらかで伸びやかな筆の動きを強調している。

津島規雪 準七
古筆を丁寧読み取り、豊かな雰囲気、臨書作品です。「や」の画めの起筆など、筆鋒が紙に食い込むようになると強さリズムが出てくる。

星野路映 師範
長年の研鑽が伺える充実した作品です。ふつくとした線の表情が温かみを帯びて、瑞々しい。癒される空気が地面に漂っています。

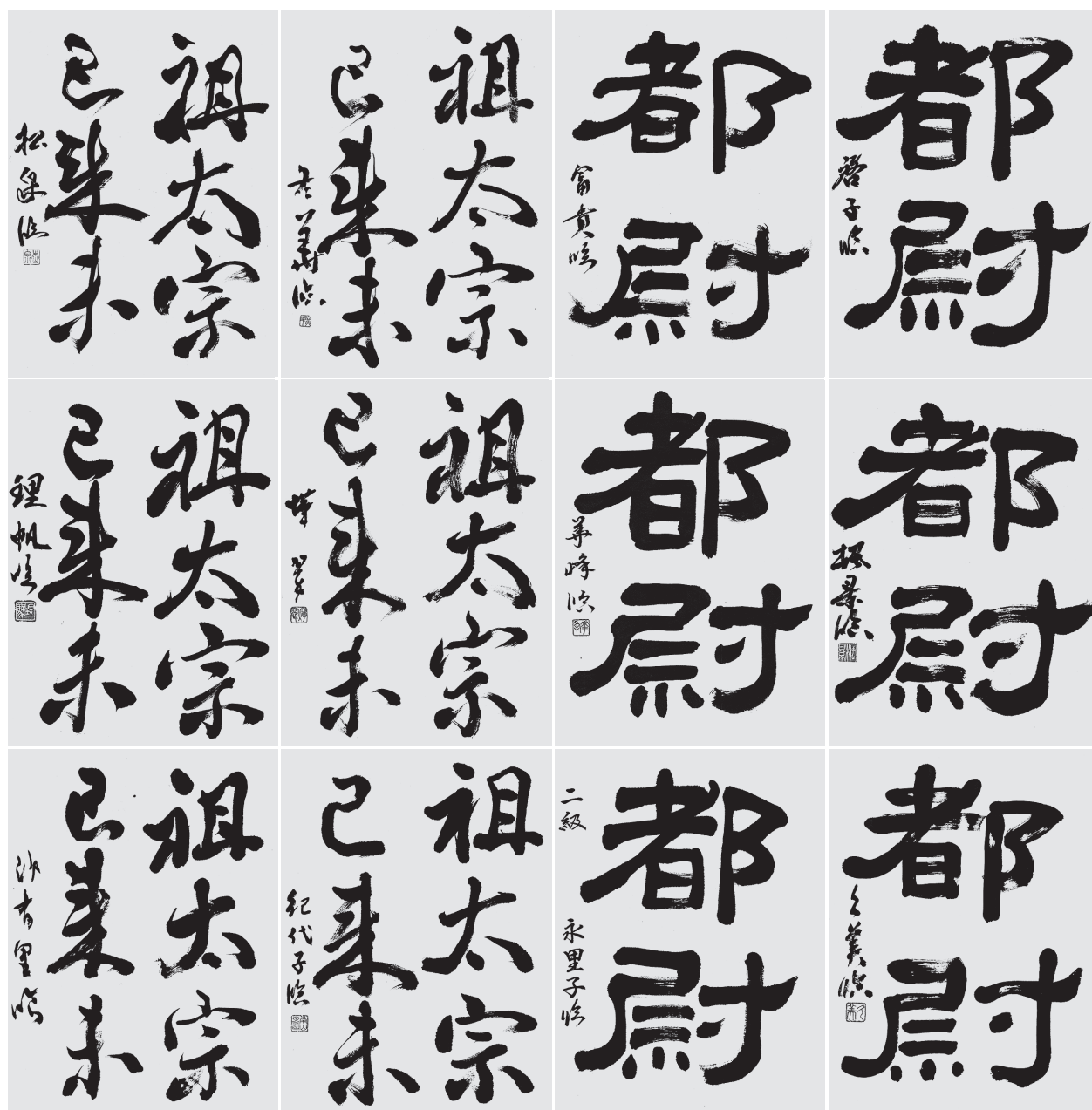
林 恵子 師範
深みのある線質で、大小粗密もあり面白い方もよくさすが師範です。心の高まりが筆に伝わり、ドラマティックな展開に心地良さを感ずる。

大西英仙 準師
墨のグラデーションが、強中弱と展開され、かならしい雰囲気です。文字右側の回旋部分も紙面を捉え、呼吸の深さを伝えている。

岩 本 ゆき子 推選
落筆高く大らかに書かれ、墨色が線質と合って美しい。「風」からの墨入れがやや不足か。「吹きに」で入れて「風」を渴筆にするのも趣深くなったかも。

鈴木暉月 推選
一字一字、深い呼吸で運筆され「風」の墨入れが利いて余白の美しい作品に。二行目上部、間の取り方見事。少々線質が硬くなったのが惜しい。

江幡太璫先生選評



坂本啓子 師範

ゆつたりと懐広く
蔵鋒も良く明るく
沈着な線が魅力で
す。梅雨時のせい
か少し薄かったで
すね。師範なので
印が欲しいですね
更に作が生きた。

小松崎楓景 師範

左右の動き、伸び
やかさ素晴らしい
です。握り柔らか
く大きな動き蔵鋒
お見事です。何本
かの素敵な渴筆も
又お見事です。落
款もいいですね。

高根富貴子 準七

筆圧の重軽、広が
りを感じる大きさ
動き、ねじれ、ひ
ねり、多種多様な
線に眼を見張るば
かり。大きさも丁
度いいが、やはり
印が欲しいですね。

長谷川華峰 準初

墨を吸わない半紙
ご検討下さい。種
類の多い蔵鋒お見
事です。横への広
がりも良く若々し
さを感じる作品で
す。潤渴の出る半
紙を選んで下さい。

小林冬華 師範

空を切る大きな動
き、浮沈、潤渴、
気脈素晴らしいで
す。落款ですが、
書き出し上から
「華」少し小さく
「臨」の位置にも
と大きめの印で
は？

梅本燐翠 師範

手首、握り柔かく
筆のかえし、ひね
り、浮沈がお見事
あの「印二回押し
てませんか？確認
できるまでは印矩
は外さないで、も
う少し離したい。

庄司松泉 七段

「未」小さく太く。
「来」長くしたかつ
たが、円い筆の全
面を上手に遣い筆
圧の変化、浮沈が
素晴らしい太細も
お見事で争坐位ら
しさ充分表現して
います。

濱田理帆 準六

ちよつと大きいね
元氣良しーとしま
しょう。縦横無尽
な動き、太細いい
ですね。渴筆が欲
しい。理想として
は大きな動きで小
さめに書いて大き
く観える様に。

財前久美 八段

墨量やや少ないが、
活きのいい書きつ
振りと、筆圧、遅
速の変化で明るく
白のきれいな作品
になりましたね。
「尉」はちよつと幅
広すぎました。

田村永里子 二級

握り柔らかく広が
り、蔵鋒いいです。
筆圧とスピードの
変化で表出された
ちよつとの渴筆が
作品を明るくしま
した。二級ですか
？素晴らしいです。

玉利紀代子 準師

墨量と筆圧の変化、
そしてちよつと大小
太細が欲しい所で
すが、大きな動き
と気脈がいいです
ね。全体の白のと
り方、余白きれい
でいいですね。

吉川沙有里 準五

この大きなのに
小さく見えない。
浮沈、筆圧、スピ
ードの変化から生
まれる強い線だか
らでしょう。お名
前も味わい深くと
ても達者な方です。